

# 澤村 売上よりも収益性 9月期は微減収増益に

澤村の清水民生常務によると、2011年9月期単体決算は売上高が前期比0.7%減の122億円で微減収ながら、経常利益は80%増と躍進し、純利益が黒字化する見通しとなった。今期は製品OEM事業で生産管理を強化するなど「売上にはこだわらず、収益性を重視する」方針だ。

第3四半期までは前年同期比微増収で推移したが、通期では微減収となった。ヤングカジュアル中心のアパレル製品OEMで「トラブルが多発した」ことや、期中に売り上げだけを追うような「無茶な受注」をやめたことなどが影響した。同じ製品事業でも、インナー関連は堅調に推移した。テキスタイル事業も総じて堅調で、売り上げ、利益の両面に寄与した。輸出事業はインナー生地の対米輸出で大口の受注を獲得するなど「良い面もあった」ものの、台湾、香港、中国向けが円高の中で失速するなど全体として苦戦を強いられた。

今期は製品、テキスタイルとともに収益性の向上に力を注ぐ。とくにアパレル製品事業では、広がり過ぎた協力縫製工場の集約化や、物流ロスの削減などで収益性にこだわっていく。近年は「増収」を目標に掲げてきたが、「モノ作りを中心とした方向に切り替え」、各種ロスの低減によって収益改善を図る。

## 上海法人の稼働に遅れ 生地、製品の内販拡大へ

澤村の中国現地法人、上海紗華貿易の本格稼働が予定よりもずれ込み、年末から年明けになる見通しだ。ただ、清水民生常務によると、ビジネス自体は進展している。

現在は中国人スタッフ3人、日本人1人という体制だが、今後は順次増員を図っていく。実質的な初年度となる来期は純粋な売上高として1億円を見込み、近年中にこれを5億円まで引き上げる。そのため、インナー製品、アパレル製品、テキスタイルの内販拡大に力を注ぐ。

繊維ニュース 2011年（H23年）10月24日 掲載

